

講義名	教養特講Ⅰ（経営学科へのいざない）			授業形態	
担当教員	李 東浩／井上 芳郎／今西 珠美／岡田 恵美／柿沼 英樹／辻 周吾／清水 隆弘／持田 信治／森口 文博／保田 洋	開講期・曜日・時間		前期 火曜日 3 時限	
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要
1．本講義は、経営管理を初めて学ぶ学生のために開講されます。経営の仕組みを身近な事例や日常的な事象と結び付けて学ぶことにより、本学商学部経営学科でのキャンスキリアの出発点となるものです。また同時にすべての学生に企業経営の面白さを理解してもらいたいと考えています。 2．本講義は、後続科目の学習の導入ガイダンスの役割を有します。商学部経営学科における「経営戦略」「起業・事業承継」「グローバル経営」「会計」の学習へと進んでいく上での手引きとしての役割を果たすものです。これら4コースを通じて、企業経営に関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・実践的能力を身につけて、社会に貢献できる人材となることが卒業までの目標です。 3．現実社会における経営課題を実践と理論の両面から偏しなく解説します。企業経営の根本を学ぶことから、講義内容は大きく現代の企業経営の重要性、企業の機能と役割など時事問題を取り上げながら、できるだけ分かりやすく解説します。毎回、資料を配付し、それに基づく教員と学生間、また学生間相互の意見交換を重視します。双方向的な講義を行います。

到達目標
1．課題と目標の発見。 日々現実世界に起こる様々な経営に関することに触れて、自らの将来の目標・夢やキャリア・イメージをより具体的に持てるようになります。 2．関心と思考の習慣。 経営・ビジネス関連の新聞報道や雑誌記事、日常生活に関心を持てるようになります。 3．実践と理論の統合。 実務社会のナゼを経営学のツケに求め、以前よりも深く考え、理解できるようになります。 4．運用と成長の実感。 仕事をしている家族やアルバイト先の先輩・同僚と経営の話ができるようになります。 5．進化と向上の準備。 これらの基礎知識と考え方の学習により、後続の経営学科の専門科目に興味を引き出し、より深く勉強する意欲と能力を身につけられるようになります。

提出課題
1．各自事前にも、最低でも以下4つを使用できるように準備しておいてください。 ①リョウカポータル、 ②アウトLOOKメールoutlook mail、 ③レスポンス、 ④マイクラウドTeamsアプリ。 これらの使用方法等を熟知・理解し、毎回課題を提出できるように準備してください。 2．毎回、各担当先生から課題の指示が出ますので、指示に従い、メッ期間中に真面目に提出をしてください。 3．毎回の提出物によって、出欠と単位・成績を取りますので、毎回出席・勉強・提出を心がけてください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
1．毎回、各担当先生から前回課題へのフィードバックや振り返りを解説します。 2．毎回、全体的な状況や一部代表的な課題を見本として提示して、双方向・多方向的考える学習型授業の醍醐味を理解して、互いに勉強しましょう。 3．毎回、自分の学習成果のチェックだけでなく、他人の意見や考え、先生のコメント・説明をも確認でき、POCAのスパイラルアップ過程を通じて、毎回自分のやる気にもつながり、自己成長を実感できます。

評価の基準
1．期末試験や期末レポートはありません。 2．毎回の平日出席・提出課題の質・量で評価します。 3．この授業は多人数（10人）の先生方によるオムニバス授業なので、毎回成績評価・採点のシステムで進めます。そのため、一回欠席すると、当該分の成績がなくなります。当然単位取得にマイナスの影響を与えます。よって、毎回、授業出席・課題提出等、きちんと自己管理してください。

履修にあたっての注意・助言他
1．全員、授業開始前までに、授業専用Teamsグループに参加すること。 2．グローバルの競争時代に、第4次産業革命の始まりに置かれている以上、一層経営学科の知識と能力が要請されています。 3．以下のように、先輩たちの一部の授業感想を参考にして、履修上の心構えとして生かしてください。 1．たくさん先生の話を聞けるというのはこの授業だけなので、自分の知識量が少しでも増えたと思います。 2．経営の仕組みについて知ることができました。また、これからも勉強していきます。 3．経営学科へのいざないの授業を受けて様々なアイデアを生み出しました。または、経営の様々な場面を気づけるようになりました。 4．講義資料や映像資料、Live授業などをやりとでも楽しん授業でした。 5．授業内容はとてもタメになるものばかりでいい教養がたくさんつけることができました。これからの日本が世界でどう戦っていくのかとても気になる興味深い授業内容でした。 6．色んな先生の話が聞けて面白かったです。 7．丁寧なご指導ありがとうございました。後期もよろしくお願しますよ。

教科書				
.使用しない。.				

参考図書				
.なし.				

その他
1．毎回、各先生方がTeamsやポータルなどより、次回分のプリント資料や、前回への振り返り資料を配付します。 2．各自、アクセス・確認・ダウンロード・印刷・持参などをしてください。 3．参考文献として後期で使用する「経営学入門」の教科書を購入することを推奨します（授業計画参照）。 4．毎回、授業中に提示する参考資料を適宜確認・入手・勉強・参照をしてください。

授業計画
第1回・第2回 李 東浩：経営学科全般紹介および国の競争優位。国の競争力をテーマに、様々な情報源より世界での日本、中国、米国の位置づけを解説し、受講生の大局面を養成します。 第3回・第4回 森口文博：経営戦略。組織のミッション・目標を達成するための手段である経営戦略について、戦略立案のプロセスやポイントを学びます。 第5回 清水隆弘：経営組織。経営組織の講義を行います。経営組織とは企業の組織のことです、多くの人が集まって協力して働く仕組みについて学びます。 第6回 辻 周吾：現代ビジネス。実際の身近な企業事例に触れ、現代ビジネス世界に対応するための発想力や思考力を養います。 第7回 岡田恵美：起業・創業。日本における起業・創業を取り巻く環境、様々な起業の形について事例を通じて説明します。 第8回・第9回 持田信治：日本と海外のものづくり。日本と海外のものづくりの違いに基づき、日本と海外の製造業に於ける経営戦略の違いを説明します。 第10回・第11回 持田英樹：人的資源管理。経営資源の1つである「ヒト」という資源の特徴や、企業組織の中でヒトをどのように管理をするのかを学びます。 第12回 保田 洋：経営情報。情報を経営にいかに応用していくか、ITを利用した情報システムの設定方法について説明します。 第13回・第14回 今西珠美：国際経営。企業のグローバル経営について取り上げます。国境を越え、異なる政治・経済・文化の中で活動する企業の姿を捉えます。 第15回 井上 芳郎：事業革新。事業革新と事業創造で経済を活性化した事例と、その背景にある経営理論を解説します。

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
1．文科省の大学設置基準第21条より、2単位の授業は90時間（以上）の学習を必要としている。15回で前と毎回6時間の学習時間は必要である。 2．毎回、90分の授業時間を2時間とみなされている。毎回、授業外の予習と復習の時間は4時間が必要である。 3．毎回、Teamsやポータルにあるプリント資料、振り返り資料・課題資料・先生指示等を各自確認してください。 4．予習の一例として、一回目の李東浩の講義では、「世界での日本・中国・米国の位置づけを考え、授業中に各自1分ほど発言できる」というような質問に答えられるように、予習準備をしてください。復習の一例として、「今回・前回の講義の内容やキーワードについてしっかり理解して、場合によって自己調べ・勉強もしましょう。どうしても分からなく知りたいたい場合、メールなどで担当先生へ連絡をしてください」。 5．先生とメール等とのやり取りする際、正しいマナーを十分意識し、「〇〇先生」の宛先呼称・敬語表現・最後まで返信など、礼儀正しい言動を取ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
1．大局面を養成し、時代の要請に応えつつ、柔軟で俊敏に変革する視野と能力で経営行動に移せます。 2．企業や組織の運営仕組みを自ら主体的な立場から関心を持ち、初歩的に理解能力を身につけます。 3．論理的な思考能力を育成し、組織メンバーと協力的に働きかけ、課題発見と課題解決に取り組めます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
1．質問やクイズなど、積極的に考えて、発言してみてください。 2．他人の発言を聞いて、自分も発言できるように授業に臨んでください。 3．先進的なレスポンスなどのシステムを駆使し、リアルタイムで他人の課題結果をグラフなどで確認でき、授業の効率と学習意欲の向上に繋がります。
実務経験の有無及び活用
一部あり。 実務経験の活用（岡田恵実）：国の中小企業支援機関において中小企業や起業・ベンチャーの支援・人材育成などに関わってきました。

備考
1．正しい姿勢と積極的に発言することを楽しみましょう。授業中に説明や討論する問題の多くは「正解」がありません。いろいろな考え方があります。多面的に考えることが経営学のみならず大学の他の授業でも大事です。 2．多くの分野、斬新な内容、様々な情報、双方向・多方向的な知的な刺激、存分に楽しみましょう。 3．先生の力、自分の力、他人の力、といった皆の力で毎回、実力向上と自己成長を楽しく体験しましょう。